

# 人生ハンド仏句

第3号

H. 14. 6. 1

山寺部  
蓮成集  
玉真編

ちょっと表へ出て買い物にしても、「有難うござい  
ます」と、心から言ってくれる人が少なくなりました。  
確かに、求める品物を渡しその分のお金を受け取  
るわけですから、当世風に言えば、ビジネスなんだ  
から、別にお世辞を言う事はないかもしれませんが、人と人の  
間、もっと広げて世の中というものは、何でもビジネスで割り切  
れるものではない、と思います。

人間同士の暖かい心、わざわざ買物に来て下さったお客様へ  
の、感謝の気持ちを忘れたら、もうそれは、人間の付き合いでな  
く、機械を相手にしている事と、同じになってしまいます。と述  
べ、「ご先祖さまへの感謝の気持ちが、毎日の生活の基本である、  
と私は思っています。」と結んでいる。

これは、信仰者としての誠に痛烈な現代批判である。本当は、  
尊い人間が、人間であることを放棄して、冷たい機械になりさが  
り、その機械と機械がぶつかりあって、火花を散らし、不快な音  
をきしませているのが今日の姿ではあるまいか。

この世の中は「恩と恩とのからみあい」で、私達は生まれながら  
にして、さまざまのものから不断に恩恵をうけている。中でも親  
となり子となる因縁は一朝一夕のものではないのに、あえてこれ  
を無視する身勝手さは、思いやりとか感謝とかいう大切な人間の  
きずなをも切り捨てようとするものにほかならない。先祖を思い、  
有ることが難しい（有難い）自分がこの世に存在し得ていること  
に対する謙虚な反省と感謝から、はじめて人間の生き方がはじま  
るのではないだろうか。

## 【ご先祖さまのおかげ】

真成寺住職 谷川 寛俊

歌舞伎の第十三世片岡仁左衛門は大の日蓮宗信者であった。その先祖崇拜の念の厚いことは有名であるが、過日「忘れられている先祖の供養」という本を一読した。

それは、私達が先祖さまあつての私達であるということから説き起し、先祖供養はなぜ必要かを説き、片岡家の先祖供養の次第から、先祖供養のマナーに説き及んでいる。

そして、その結語の中で「人間は、ご先祖さまたちから今まで、長い長い時間をかけて、こうして生き栄えてきているのであって、急にポコン、と生まれてきているのではない。

人間は、ひとりぼっちのように見えても、自分がここに、こうして生きていられるのは、みんなご先祖さまのお陰だ、という感謝の気持ちを忘れない限り、決して、ひとりぼっちではないので